

香川県三豊市（国内 31 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る  
疫学調査チームの現地調査概要

令和 2 年 12 月 23 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境

- ① 当該農場は、丘陵部の中腹にあり、付近は山林に囲まれ、ため池が隣接している。
- ② 農場に隣接するため池では、調査時に 3 羽のマガモが確認された。
- ③ 当該農場には開放鶏舎 4 棟があり、発生時はすべての鶏舎で、肉用鶏が平飼いで飼養されていた。発生鶏舎は、農場奥側、ため池から最も近くに位置する鶏舎であった。
- ④ 当該農場から約 200m の距離に 28 例目農場が位置していた。

2 通報までの経緯

- ① 12 月 18 日に 28 例目の発生に伴う周辺農場検査において、全ての鶏舎で、陰性が確認されていた。
- ② 飼養管理者によると、発生鶏舎における 1 日あたりの死亡鶏は 0~5 羽程度で推移していたところ、12 月 19 日に 14 羽の死亡鶏が確認されたが、敷料が湿っていたことから大腸菌による下痢を疑い、鶏舎内の気温を上げる等して、経過を見ていたとのこと。
- ③ 飼養管理者によると、12 月 20 日に死亡鶏は 7 羽と減少、12 月 21 日は 15 羽と増加したが肉冠の異常等は認められなかったとのこと。12 月 22 日に 44 羽と増加し、死亡鶏が発生鶏舎内の奥側において散在、肉冠の変色も確認されたことから、家畜保健衛生所に通報したとのこと。

3 管理人及び従業員

- ① 飼養管理者によると当該農場では従業員 3 名が管理を行っており、毎日、鶏舎において鶏の健康観察を行うとともに、死亡鶏の回収を行っていたとのこと。
- ② 飼養管理者によると、従業員が担当する鶏舎は決まっておらず、3 名の従業員はいずれの鶏舎においても作業する可能性があったとのこと。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 飼養管理者によると、従業員は農場専用の作業着と長靴を使用していたが、手袋は消石灰を扱うときにのみ着用していたとのこと。また、鶏舎毎に専用の長靴を設置し、手指消毒を実施していたとのこと。
- ② 鶏舎横には飼料タンクが設置されているが、当該タンク上部には蓋が設置されており、タンク内への野鳥等の侵入やタンク内の飼料への野鳥の糞等の混入の可能性は低い状況であった。
- ③ 飼養鶏への給与水は、水道水が使われており、鶏舎毎の貯水タンクに貯蔵し、鶏舎に供給されている。
- ④ 飼養管理者によると、鶏糞の処理は、オールアウト後に系列農場の焼却炉に搬出していたため、今回の発生鶏群については、鶏糞の搬出はなく、最後の搬出は約 2 ヶ月前とのこと。
- ⑤ 飼養管理者によると、健康観察時に回収した死亡鶏は、毎日、系列農場入口にある焼却炉へ搬出し、処理していたとのこと。
- ⑥ 飼養管理者によると、鶏舎ごとのオールイン・オールアウトを行っており、オールアウトのたびに清掃・消毒を行っているとのこと。
- ⑦ 飼養管理者によると、農場入口には普段から消石灰を散布しており、10 月の家畜保健衛生所の立ち入り指導以降、鶏舎周囲にも消石灰を定期的に散布していたとのこ

と。

- ⑧ 飼養管理者によると、車両が農場敷地内に入出入りする際、車両の消毒として農場入口に設置している電動式消毒装置による消毒を行っていたとのこと。
- ⑨ 発生鶏舎の側面は網（マス目は約 5cm×4cm と約 4cm×3cm）とその外側にはロールカーテンが設置されている。また、鶏舎入口側には排気用の換気扇が設置されており、外側に手動で開閉する蓋がついている。管理人によると、ロールカーテンを、日中は 20cm 程度、夜間は 5cm 程度開放しており、換気扇は常に作動させていたとのこと。

## 5 野鳥・野生動物対策

- ① 当該農場の側面の金網や壁で一部に 3cm 以上の破損や隙間が認められた。
- ② 飼養管理者によると、鶏舎内でネズミの足跡を見かけることはあったが、定期的なネズミ対策は行っていなかったとのこと。
- ③ 飼養管理者によると、農場敷地内でイノシシやネコ、スズメ等を見かけることがあるが、鶏舎内でこれらの野生動物を見ることはなかったとのこと。